

日本政治学会 会報

The JPSA News

No.41

MAY, 2001

2001年度の研究企画によせて

企画委員長 藪野 祐三

今年度の学会は、21世紀の第1回目の大会にあたる。そのことを念頭において企画を編んだが、2つの共通論題は、20世紀を振り返ることと、21世紀を見通すことに割いた。と同時に、分科会もまた、この問題意識を土台として構成されている。

このような目的を実現するために、意図的に縦糸と横糸をプログラムの背後に織り交ぜた。縦糸とは、20世紀と21世紀の結節点をどのように切り開くかという問題意識から構成されている。いいかえれば、時間軸で問題意識が設定されている。他方、横糸は国家とその正統性をめぐる問題状況が、時間軸の中でどのように変容していくのかという争点軸で問題意識が設定されている。このように、とにもかくにも、国家をめぐる問題意識が今回のプログラムの通奏低音をなしているといえる。

具体的にいえば、国家をめぐる問題は、主権概念の過去の歴史と、将来への構成に帰着する。主権が果たした役割を、歴史的に分析しなければならない。

実は、この問題はさまざまな角度から考えてみる必要がある。当然、主権の正統性そのものを問題にしなければならないが、しかし主権は対外的な機能ばかりでなく、国内的な機能をも担保している。

対外的な機能は外交能力として、将来的にもある程度問題意識を鮮明にして分析できるテーマだが、国内的な機能は、やや複雑な状況下にある。

20世紀末から今日にかけて、政治そのもの、あるいは政府そのものへの信頼性が、急激に薄らいでいる。政治が一面では、社会の信頼性を担保する働きを基本とするならば、ここでは政治の作用そのものが、大きく問い直され始めている状況が理解できる。

問題は、単に政治に対する信頼性だけに留まらな

い。20世紀にあって、国家にあらゆる機能が集中管理された時代は、国家こそがすべてであったかもしれない。国家独占資本主義、プロレタリアート独裁国家など、20世紀は資本も労働も国家の主権を独裁的に運用しようとした時代ではなかったか。

主権に対する信頼のゆらぎは、政府に対する批判であり、その批判は単に批判に留まらず、政府を代替する新たなアクターを創造しつつあることもまた、否定できない。その典型の1つが、NPOやNGOだといえよう。

国家が退場する、あるいは国家が弱体化することがさかんに論じられているが、では他方、国家に代わる組織は何なのか、あるいは国家に代わる組織の必要性があるのかどうか、必ずしも明確に解答が出されている訳ではない。

その意味で、政治学の国家からの脱却はそれなりに評価できるとしても、では政治学は国家に代わって信頼性を担保する組織を、機能を、そして役割を実現するアクターをどこに求めるのかについて、十分に論争してきた訳ではない。

若者の政治離れ、投票率の低下、さらに政治的無関心の増大など、政治から退場する意識が、ますます拡大していく。にも拘らず、人間が政治的動物である以上、信頼性を担保した決定機関を必要とするに違いない。

今回のプログラムで、行政国家を回顧し、NOPを日韓比較で取り上げ、信頼性の政治を探るのも、このような問題意識から発生したものとなっている。

ナショナルに対するローカルの新たな展開も、この問題意識から設定されている。

政治への信頼は、果たされるのか、それが本プログラムのテーマとなっている。

2001 年度 日本政治学会研究会プログラム(4 月末現在)

共通論題Ⅰ テーマ「歴史としての20世紀－政治史と社会史の交差－」

司 会 山口 定 (立命館大学)
 報告者 御厨 貴 (政策大学院大学)「日本政治史としての20世紀」
 柏岡 富英 (京都女子大)「60年代に見る20世紀のアメリカ」
 熊野 直樹 (九州大学)「ヨーロッパにおけるドイツの20世紀」
 討論者 久保 文明 (慶応大学)
 篠田 徹 (早稲田大学)

共通論題Ⅱ テーマ「21世紀の政治と政治学－「主権概念」を中心に－」

司 会 中西 輝政 (京都大学)
 報告者 山崎 充彦 (龍谷大学)「国家主権は絶対的なのか否か：主権概念絶対性の相対性と21世紀の視点」
 吉川 元 (神戸大学)「国際秩序における「主権」概念：国際安全保障と内政干渉の正当性」
 成田 憲彦 (駿河台大学)「国内政治における主権論の射程：市民社会 vs 国家の21世紀的展開」
 討論者 森脇 俊雄 (関西学院大学)
 猪口 邦子 (上智大学)

分科会A テーマ「行政国家を回顧する」

司 会 村松 岐夫 (京都大学)
 報告者 金子 勝 (慶応大学)「グローバリゼーションと日本の行財政システム」
 田辺 国昭 (東京大学)「行政国家のディレンマ、福祉国家のディレンマ：オイルショック以降の政治経済改革を軸に」
 討論者 中野 実 (明治学院大学)
 久米 郁男 (神戸大学)

分科会B テーマ「主権概念の再検討－政治思想史の視点から－」

司 会 押村 高 (青山学院大学)
 報告者 古賀 敬太 (大阪国際大学)「政治思想史における主権概念の展開とその批判：C・シュミットを手掛かりとして」
 早川 誠 (立正大学)「主権と国家の関係：多元的国家論の視点から」
 篠田 英朗 (広島大学)「国際関係論における国家主権概念の再検討：英米圏における法の支配の思想との関連において」
 討論者 権左 武志 (北海道大学)
 遠藤 誠治 (成蹊大学)

分科会C テーマ「信頼性の政治学」

司 会 蒲島 郁夫 (東京大学)
 報告者 猪口 孝 (東京大学)「10数カ国比較における政治的信頼性論」
 岡本 仁宏 (関西学院大学)「理論的な市民社会論 / 信頼性論」
 村山 皓 (立命館大学)「政治不信：地方と行政と市民の信頼関係？」
 討論者 井戸 正伸 (茨城大学)
 田中 愛治 (早稲田大学)

分科会D テーマ「連立政権時代の政党と政策」

司 会 村上信一郎 (神戸外大)
 報告者 新川 敏光 (北海道大学)「労働の変容と権力資源動員の可能性：新たな政策的対立軸を求めて」
 宮本 太郎 (立命館大学)「クリーヴィッジ変容と福祉政策」
 五十嵐暁郎 (立教大学)「社会の構造転換と政党の政策形成能力」
 討論者 中北 浩爾 (大阪市立大学)

分科会E テーマ「アジアの政治空間とNGO」

司 会 片山 裕 (神戸大学)
報告者 磯崎 典世 (学習院大学)「韓国の政治空間とNGO」
酒井由美子 (中央大学)「インドネシアの政治空間とNGO」
川中 豪 (アジア経済研究所)「フィリピンの政治空間とNGO」
討論者 山本 信人 (慶応大学)
河田 潤一 (大阪大学)

分科会F テーマ「価値変容と政治—ナショナルリティとローカリティー」

司 会 瓜生 洋一 (大東文化大学)
報告者 山本 左門 (北海学園大学)「地域自立構想の視座—戦後北海道に則して—」
平井 一臣 (鹿児島大学)「周辺地域とナショナルリティ—戦後奄美を事例として」
波平 恒男 (琉球大学)「戦後沖縄とアイデンティティをめぐる政治」
討論者 雨宮 昭一 (茨城大学)
中川 伸二 (福島大学)

分科会G アメリカ政治学会との交流

司 会 小林 良彰 (慶応大学)
報告者 Helen Milner (Columbia University)「Why the Rush to Free Trade?: Democracy and Trade Policy in the Developing Countries」

William M. Downs (Georgia State University)
「Nations in the Global Economy : Subnational Governments as Entrepreneurs」

討論者 古城 佳子 (東京大学)
河野 勝 (青山学院大学)

分科会H 韓国政治学会との交流 テーマ「日韓市民社会の比較」

司 会 木宮 正史 (東京大学)
報告者 韓国政治学会にて人選中
出水 薫 (九州大学)「未定」

分科会I 自由論題

司 会 中道 寿一 (北九州市立大学)
報告者 外池 力 (明治大学)「なぜ黙っているのか：沈黙の理由に関する政治学的考察」
松永 信一 (摂南大学)「N・ルーマンのシステム理論とその政治学的貢献：イーストンのシステム論との比較の中で」
大黒 太郎 (福島大学)「2000年オーストリア政権交代をどうみるか」

本年度の日本政治学会研究会は、10月13日(土)14日(日)の両日、立教大学において開催予定です。共通論題、分科会の開催日程は、下記の通りです。

13日 共通論題Ⅰ
分科会 A、B、C、H、I
14日 共通論題Ⅱ
分科会 D、E、F、G

第 20 回世界政治学会の日本開催について

国際交流委員長 蒲島 郁夫

日本政治学会は、2000年10月の理事会において、世界政治学会（IPSA）総会を日本に招致する事を正式に決定しましたが、その後の展開について簡単にご報告致します。

(1) 10月の理事会において、IPSA世界大会招致のための検討委員会と諮問委員会のメンバーが以下のように決定されました。

諮問委員会 五百旗頭真（委員長）、加茂利男、
佐々木毅（委員長）、馬場康雄、
堀江湛、村松岐夫、渡辺浩

検討委員会 飯島昇蔵、大嶽秀夫、蒲島郁夫（委員長）、
北岡伸一、久米郁男、小林良彰、
辻中豊、藤原孝、御厨貴、藪野祐三

(2) 2000年8月ケベックで行われたIPSA執行委員会で、日本政治学会は正式に、日本での開催案を提出しました。その後、2001年2月1日に南アフリカ

のダーバンで行われた執行委員会で、2006年IPSA世界大会の開催地が正式に日本に決定致しました。今回は、日本、スペイン、チリの3カ国が立候補致しましたが、投票の結果、15票のうち、13票が日本での開催に賛成、2票が棄権でした。

- (3) 日本での開催地の決定に当たって、
- ①開催都市の誘致に対する熱心さ、
 - ②国際会議場の施設の有無、
 - ③ホテルと空港の利便性

を考慮し、検討委員会と諮問委員会において福岡市を開催地として最適であると判断し、この決定を理事会に報告致しました。政治学会理事会は、その答申を受けて2001年3月17日、IPSA世界大会を福岡市で開催することを決定致しました。

(4) 以上がIPSA世界大会に関するご報告ですが、大会を成功させるために会員の皆さまの多大なご協力を切にお願い致します。

2000年度第4回理事会記録

日 時：2000年12月16日（土）午後1時から2時
まで

場 所：日本大学法学部第1会議室

第4回理事会では以下の事項が報告・協議された。

1. 各委員会報告

(1) 年報委員会

2000年度年報委員長の加藤理事（欠席のため藤原常務理事代読）より、2000年度年報は2001年1月に刊行予定である旨の報告がなされた。

2001年度年報委員長の馬場理事（欠席のため藤原常務理事代読）より、公募論文は19本のエントリーがあったが、11月30日現在、提出された論文は3本のみであり、レフェリーを速やかに決定する予定である旨の報告がなされた。

2002年度年報委員長の安理事から、本日（12月16日）、第1回年報研究会を日本大学で開催する旨の報告及び文部省科学研究助成金の申請を済ませた旨の報告がなされた。また、年報委員として牧野雅彦（広島大学）会員を追加委嘱する旨の報告がなされ了承された。

(2) 国際交流委員会

国際交流委員長の蒲島理事より、ヨーロッパ小委員長を小林良彰理事、アメリカ小委員長を西沢由隆（同志社大学）会員に委嘱した旨の報告がなされた。また、小林理事よりヨーロッパについては、必要な予算申請を行い、アメリカについては3名の派遣者を決定した旨の報告がなされた。

(3) 日韓交流小委員会

日韓交流小委員長の辻中理事より、12月6～9日の韓国政治学会に会員1名を派遣した旨の報告がなされた。

(4) 選挙管理委員会

選挙管理委員長の谷理事より選挙管理委員や選挙日程などは調整中である旨の報告がなされた。

(5) 文献委員会

文献委員長の藤本理事が欠席のため藤原常務理事より、文献委員候補者名簿が提示され、若干の討議がなされた。また、出席理事より年報の年次と文献委員会の年次にズレがあるとの指摘があり、今後の検討課題とした。

(6) 企画委員会

企画委員長の藪野理事欠席のため委員の辻中理事から、準備は順調に進んでおり、詳細は3月理事会で報告予定である旨の発言があった。

2. 新入会員承認の件

以下18名の入会が承認された。

浅野豊美、岩田厚、大八木時広、亀ヶ谷雅彦、黒柳保則、高克、小堀真裕、佐藤陵一、島田幸典、高橋善隆、苫米地重亨、中野剛充、昇秀樹、宗像優、森達也、山崎充彦（再入会）、若畑省二、渡辺容一郎

3. 事務局連絡

藤原常務理事より、去る10月25日に神戸大学にて事務局の引き継ぎを行った旨の報告がなされた。

4. 次回理事会開催日の件

次回理事会は3月17日（土）に日本大学法学部において開催することが承認された。

5. その他

小野理事より2000年度総会・研究会が無事終了した旨の報告及びお礼の挨拶がなされた。また、学会開催に関する学会からの費用補助が現在105万円であるが、学会を円滑に開催するためにはとても足りず、今後は学会からの補助を増額してほしい旨の要望がなされた。これに関連し辻中理事からも、国際交流委員会の財政も苦しいので善処してほしい旨の要望がなされた。これらの要望に対し堀江理事長より、学会開催校に対する補助について、次回から130万円程度に引き上げを検討し、来年度の予算にかかわる3月の理事会で提案したい旨の申し出があり、了承された。

2000年度第5回理事会記録

日 時：2001年3月17日（土）午後2時から3時
20分まで

場 所：日本大学法学部第1会議室

第5回理事会では以下の事項が報告・協議された。

1. 各委員会報告

(1) 年報委員会

2001年度年報委員長の馬場理事（欠席のため藤原常務理事代読）より、公募論文3本のうち1本を掲載することを決定したこと、近日中に年報の執筆者と構成を確定し当該会員には執筆をお願いすること、4月以降も科研費を利用して研究会・打ち合わせ会を開催する予定であることが報告された。

2002年度年報委員長の安理事より、本日第2回年報委員会を開催予定であること、本日までの公募論文の応募が3本であることが報告された。

(2) 企画委員会

企画委員長の藪野理事欠席のため委員の辻中理事より、配布資料をもとに2001年度研究会の企画案が報告された。

(3) 国際交流委員会

国際交流委員長の蒲島理事より、1月28日から2月1日まで南アフリカのダーバンにおいて開催されたIPSA執行委員会において投票の結果、2006年の日本におけるIPSA世界大会の開催が決定した旨の報告がなされた。また、開催地については、IPSA諮問・検討合同委員会で投票の結果、福岡市に決定された旨の報告がなされ、承認された。これに関連して、同委員長より、開催の準備に向けて理事会の協力をお願いしたい旨の発言があった。

(4) 文献委員会

文献委員長の藤本理事より、文献委員会は13名の委員で発足し、3月11日開催の委員会にお

いて、執筆の分担、領域の調整などを行った旨の報告がなされた。

(5) 選挙管理委員会

選挙管理委員長長の谷理事より選挙管理委員として磯崎育男（千葉大学）、大川正彦（東京外国語大学）、奥村大作（日本大学）、佐藤正志（早稲田大学）、平野浩（明治学院大学）、星野智（中央大学）、真水康樹（新潟大学）の各会員に委嘱したい旨の提案があり、承認された。また、3月26日に第1回選挙管理委員会を開催し、今後の日程を決定したい旨の報告があった。なお、日程については5月23日投票用紙発送、7月7日に第2回選挙管理委員会を開催し、開票、当選者の確定および諾否の確認作業に入り、最終的に7月23日に理事長および事務局に結果を報告するという予定である旨の報告があった。

(6) 開催校

新藤理事より、次回研究会開催にむけて、学内で準備委員会を発足した旨の報告がなされた。

2. 2000年度決算の件

藤原常務理事より決算報告（決算案別添）、秋月、河野両監事より監査報告がなされ承認された。

3. 2000年度予算の件

藤原常務理事より予算案（別添）の提案があり、承認された。

これに関連して、辻中理事より国際交流委員会小委員会においては、財政的に苦しい状況なので考慮してもらいたい旨の発言があった。これに対し堀江理事長から、今後の状況を見ながら、予備費などで対応していきたい旨の発言があり、了承された。

4. 新入会員承認の件

以下9名の入会が承認された。

饗場和彦、小田義幸、小原雅代、小島秀樹、熊野直樹、高原秀介、納家政嗣、宮下豊、村井淳

5. 次回理事会開催日の件

次回理事会は、6月9日（土）に近畿大学において開催されることが承認された。

6. その他

(1) 文献目録のCD-ROM化等に関する件

藤原常務理事より、成沢会員から政治学文献目録のCD-ROM化についての要望書が送付されてきた旨が報告された。これに関連して、文献委員長の藤本理事から、政治学会50周年を機会に1945-95年の政治学関係邦文文献総合目録を作成し、それをCD-ROM化することを、以前理事長に提案したことがある旨の発言がなされた。これに対し堀江理事長より、今後、文献委員会で費用その他を検討し、その結果を改めて理事会で検討することが提案され、了承された。

(2) 年報復刊に関する件

藤原常務理事より、岩波書店から年報を1セット（30冊）96,900円で300セットを復刊し、印税（3%）については、ほとんどの執筆者の同意を得て、学会に支払われることになった旨の連絡を受けたことが報告がされた。

(3) 日本学術会議シンポジウムの件

藤原常務理事より、事務局あてに日本学術会議第2部主催シンポジウム「法科大学院と法学部教育」（2001年4月5日、午後1時30分～）の案内が送付されてきている旨の報告がなされた。

(4) 科研費審査委員候補者推薦の件

藤原常務理事より、近日中に平成14年度科研費審査委員候補者の推薦依頼が日本学術会議からなされる予定であるので、この対応について検討してほしい旨の発言があった。これに関連して、堀江理事長より、前例に従い慎重に対応したいので一任していただきたいとの提案があり、了承された。

(5) 転居先不明者の扱いについて

藤原常務理事より、ニューズレター10件・年報37件の計47件が転居先不明で返送されてきており、次号のニューズレターに転居先不明者の氏名を掲載し、転居先等の把握に努めたい旨の発言があり、了承された。

学 会 ニ ュ ー ス

日本政治学会 2000 年度決算(案)

(一般会計)

	費 目	予算額	通年執行額	残 高
収入				
1	前年度繰越金	6,592,631	6,592,631	0
2	会費収入	10,700,000	10,792,500	-92,500
3	雑収入	3,000	153,514	-150,514
収入合計		17,295,631	17,538,645	-243,014
支出				
1	研究会開催費	1,100,000	1,100,000	0
	A.研究会準備金	1,050,000	1,050,000	0
	B.報告者礼金	50,000	50,000	0
2	委員会経費	780,000	780,000	0
	A.年報委員会	210,000	210,000	0
	B.企画委員会	210,000	210,000	0
	C.文献委員会	190,000	190,000	0
	D.国際交流委員会	170,000	170,000	0
	E.選挙管理委員会	0	0	0
3	理事会経費	20,000	9,000	11,000
4	IPSA学会分担金	350,000	328,350	21,650
5	事務局経費	800,000	634,875	165,125
	A.理事長通信費	100,000	100,000	0
	B.運営費	60,000	60,000	0
	C.人件費	300,000	300,000	0
	D.経常費	170,000	71,270	98,730
	E.事務局移転費	170,000	103,605	66,395
6	学会事務センター委託経費	1,330,000	1,505,625	-175,625
	A.業務委託費	1,140,000	1,198,491	-58,491
	B.事務通信費	190,000	307,134	-117,134
7	名簿作成積立金	400,000	400,000	0
8	国際交流基金への積立金	300,000	300,000	0
9	選挙管理費	0	0	0
10	会報発行費	750,000	639,420	110,580
11	年報会計への繰出	5,610,000	5,147,534	462,466
12	予備費	5,855,631	589,980	5,265,651
支出合計		17,295,631	11,434,784	5,860,847

一般会計資産

東京三菱銀行普通口座	810,066
郵便貯金総合口座	40,847
学会事務センター預け金	5,252,948
合 計	6,103,861

(別会計)

1.名簿作成積立金

	費 目	予算額	通年執行額	残 高
収入				
1	前年度繰越金	470,874	470,874	0
2	本年度積立金	400,000	400,000	0
3	利息	226	500	-274
収入合計		871,100	871,374	-274
支出				
1	名簿作成費用	0	0	0
2	予備費	871,100	0	871,100
支出合計		871,100	0	871,100

差引残高 871,374

2.国際交流基金

収入				
1	前年度繰越金	21,398,965	21,398,965	0
2	本年度積立金	300,000	300,000	0
3	利息	126,035	127,050	-1,015
収入合計		21,825,000	21,826,015	-1,015
支出				
1	執行計画	425,000	300,840	124,160
2	予備費	21,400,000	0	21,400,000
支出合計		21,825,000	300,840	21,524,160

差引残高 21,525,175

学 会 ニ ュ ー ス

日本政治学会 2001 年度予算(案)

〔一般会計〕

	費 目	予 算 額
収入		
1	前年度繰越金	6,103,861
2	会費収入	11,000,000
3	雑収入	3,000
収入合計		17,106,861
支出		
1	研究会開催費	1,350,000
	A.研究会準備金	1,300,000
	B.報告者礼金	50,000
2	委員会経費	815,000
	A.年報委員会	210,000
	B.企画委員会	210,000
	C.文献委員会	190,000
	D.国際交流委員会	170,000
	E.選挙管理委員会	35,000
3	理事会経費	20,000
4	IPSA学会分担金	350,000
5	事務局経費	530,000
	A.理事長通信費	100,000
	B.運営費	60,000
	C.人件費	200,000
	D.経常費	170,000
6	学会事務センター委託経費	1,400,000
	A.業務委託費	1,210,000
	B.事務通信費	190,000
7	名簿作成積立金	400,000
8	国際交流基金への積立金	500,000
9	選挙管理費	400,000
10	会報発行費	750,000
11	年報費	5,500,000
12	予備費	5,091,861
支出合計		17,106,861
差引残高		0

〔別会計〕

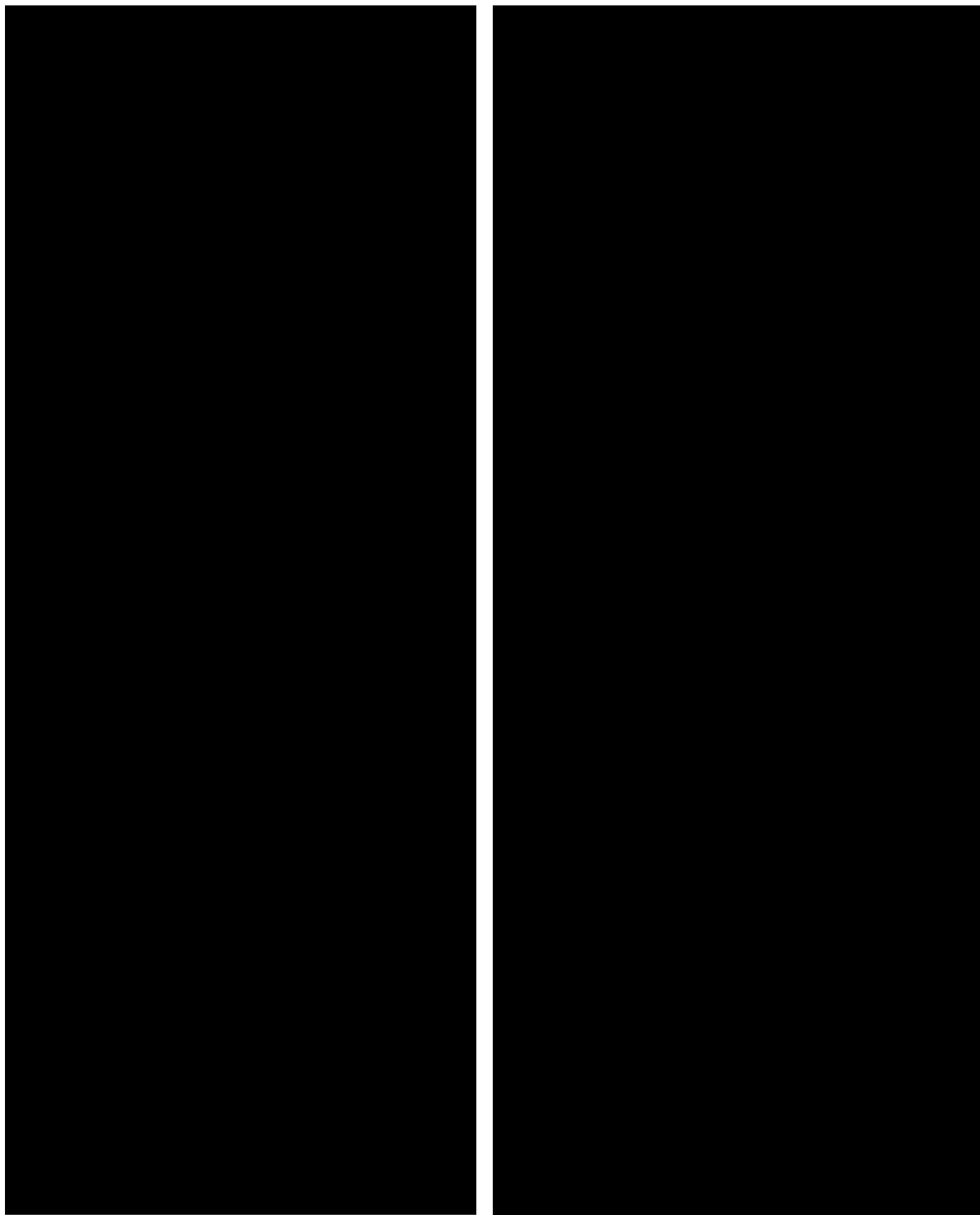
1.名簿作成積立金

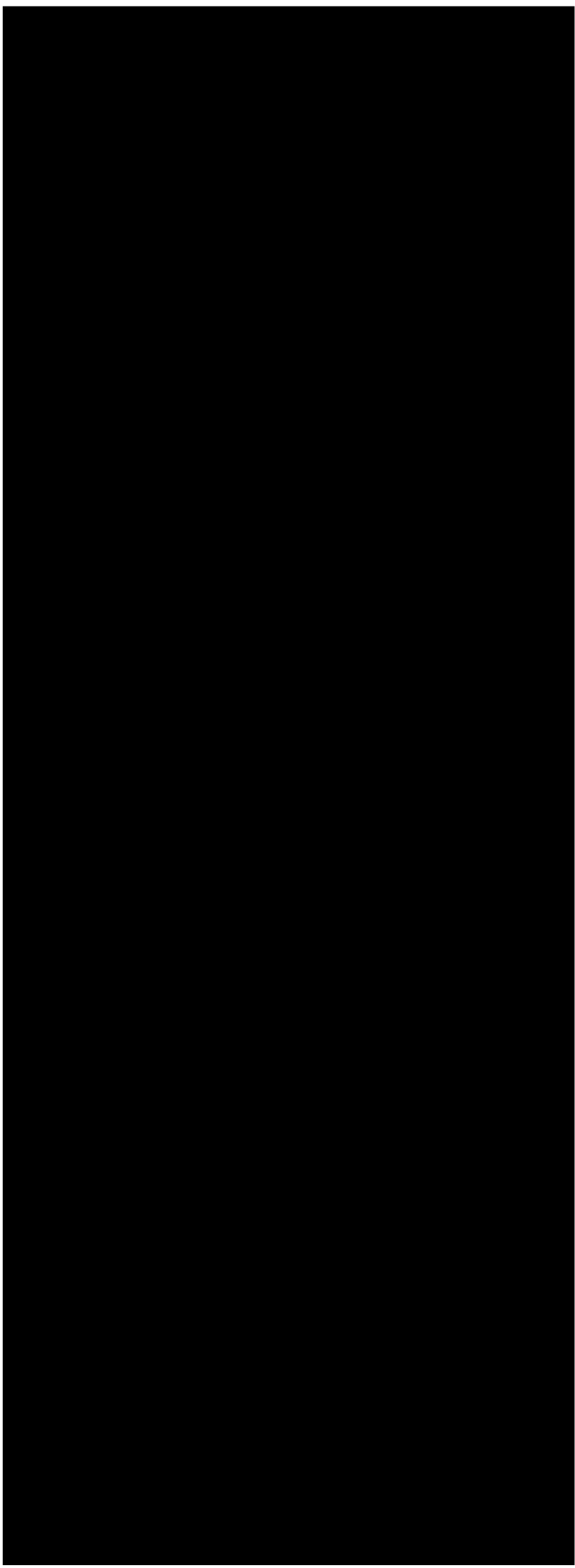
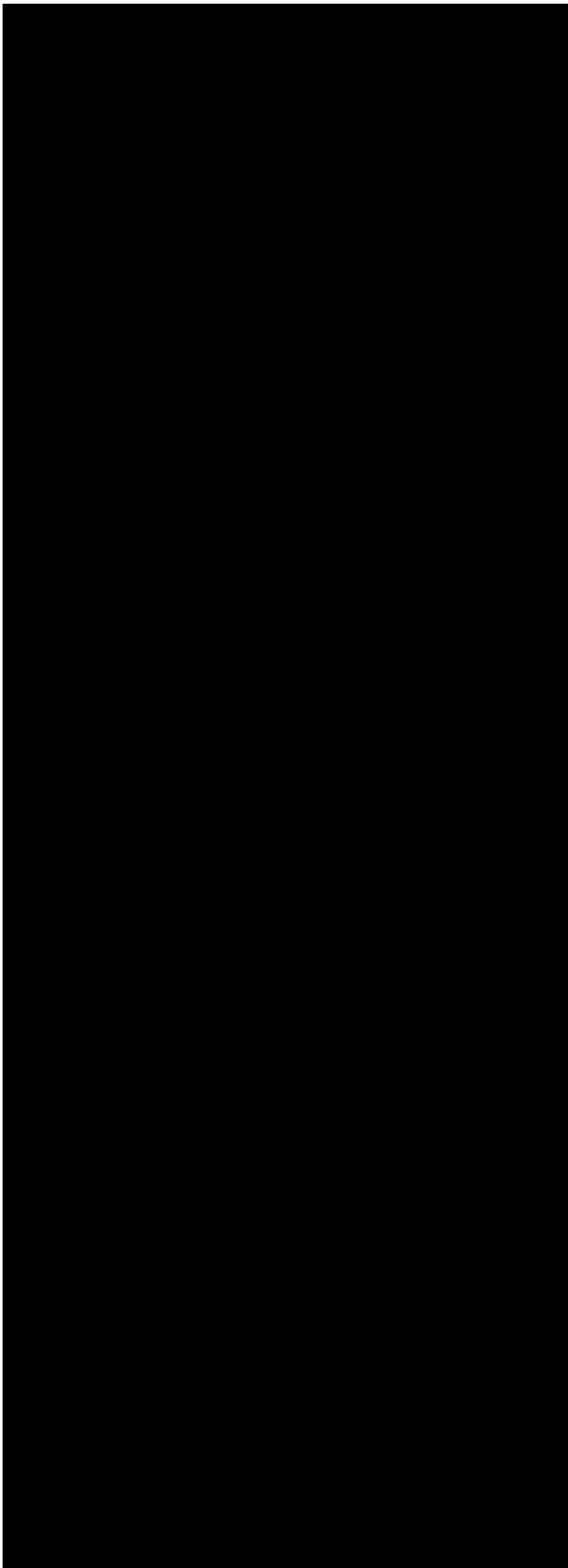
	費 目	予 算 額
収入		
1	前年度繰越金	871,374
2	本年度積立金	400,000
3	利息	426
収入合計		1,271,800
支出		
1	名簿作成費用	0
2	予備費	1,271,800
支出合計		1,271,800
差引残高		0

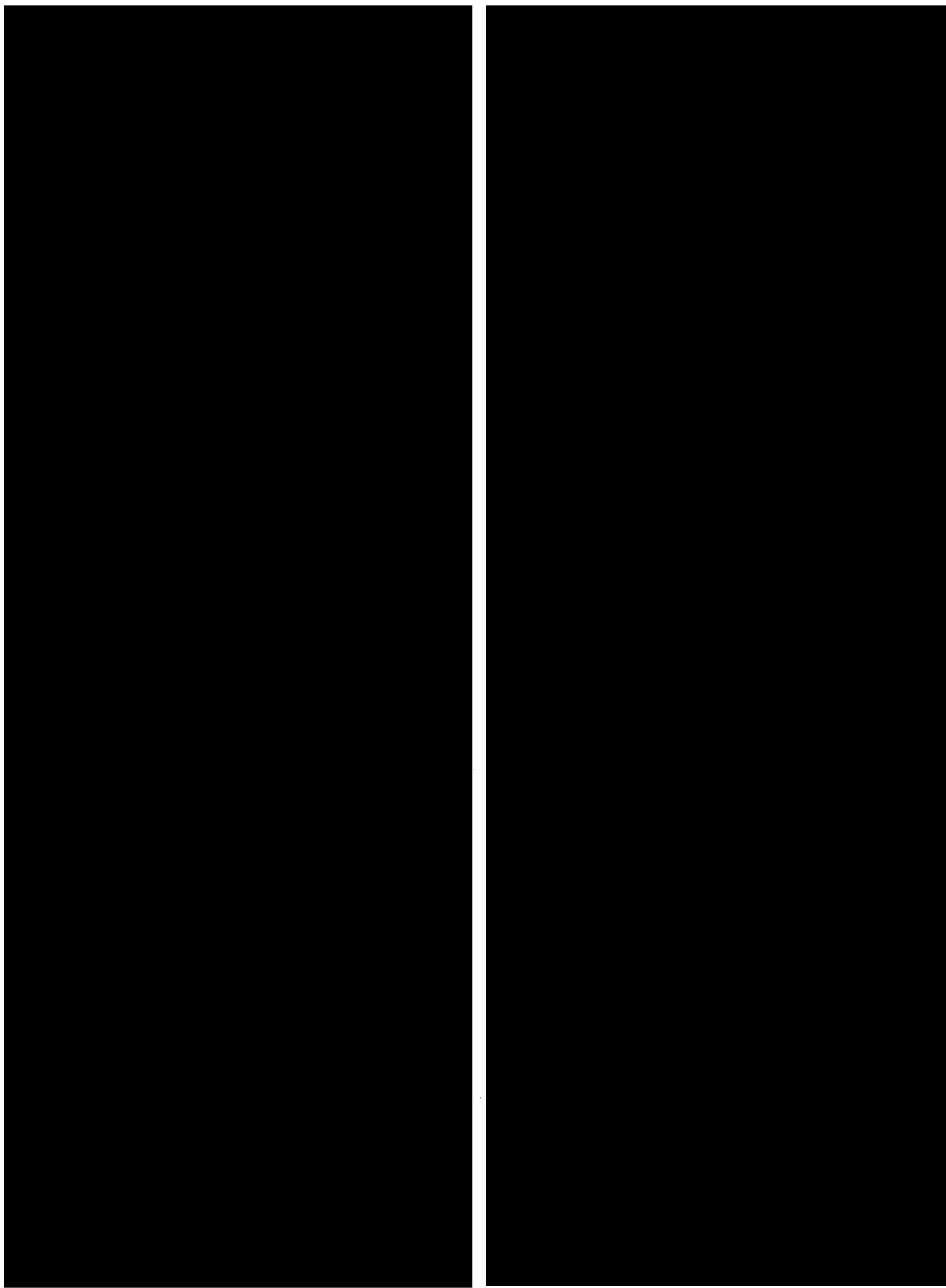
2.国際交流基金

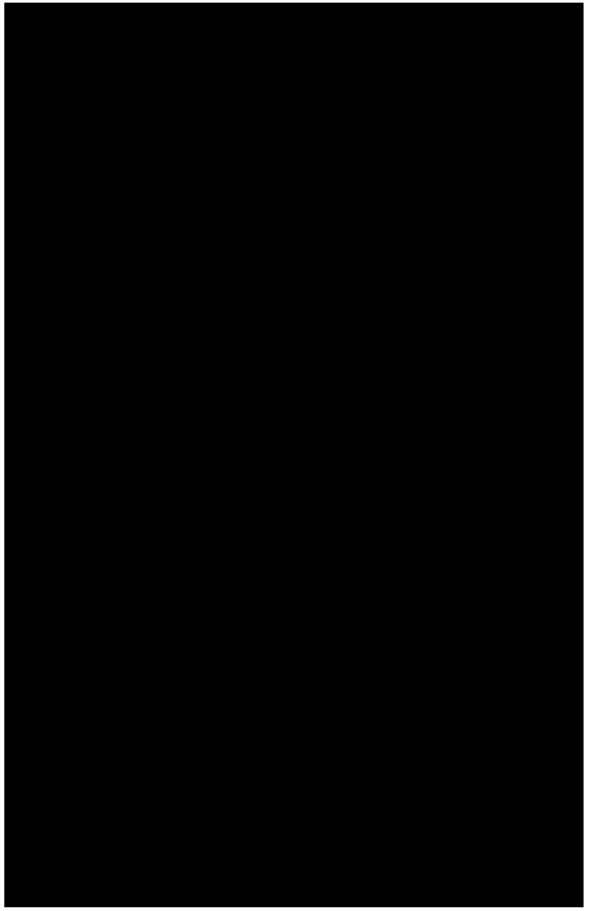
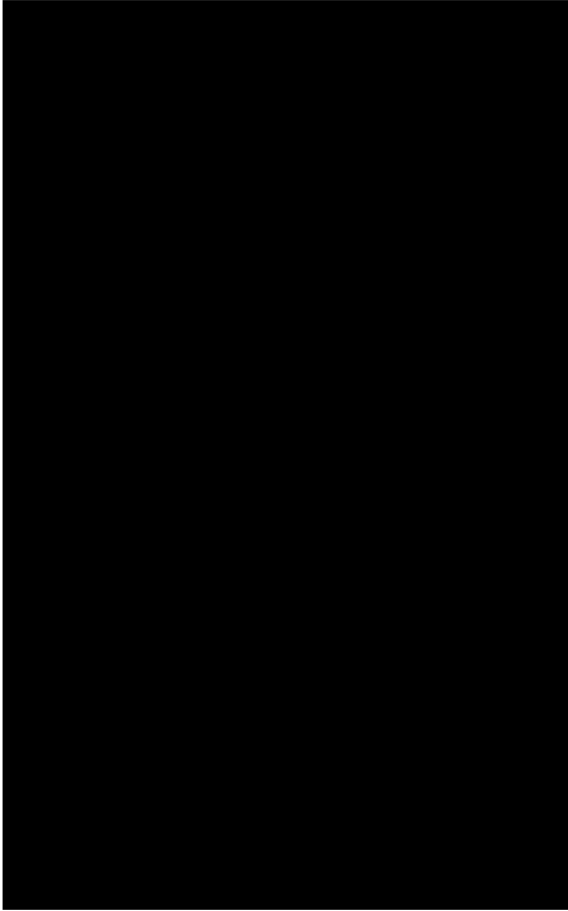
収入		
1	前年度繰越金	21,525,175
2	本年度積立金	500,000
3	利息	124,825
収入合計		22,150,000
支出		
1	執行計画	400,000
2	予備費	21,750,000
支出合計		22,150,000
差引残高		0

会員の異動









事 務 局 よ り

事務局からのお願い

下記の会員は、学会事務センターより転居先等不明として連絡を受けた方々です。学会事務センターに住所等をご連絡下さい。

青木 一益	権左 武志	村山 皓
荒木昭次郎	袖井林二郎	文 聖漢
池田 実	田辺 国昭	安永 勲
伊東 孝之	堤 英敬	吉田 博司
今林 直樹	豊永 郁子	LEWIS
梅垣 理郎	中川 伸二	Jonathan
ELDLIGE	中谷 真憲	李 好童
Robert D.	中達 啓示	石田 雅樹
大川 正彦	中村 研一	岡林 信一
岡野 八代	浜田 幸策	金丸 裕志
緒形 康	日詰 一幸	金 泳坤
荻田 真司	PENG Ito	鈴木 光恵
工藤美知尋	牧原 出	服部 聡
小島 和貴	三竹 直哉	

会費納入等についてのお願い

年会費を納めていただいていない会員の方が若干おいでになります。学会事務センターからもご案内させていただいておりますが、何卒速やかにご協力のほどお願いいたします。一般会員は7,500円、学生会員は5,000円です。

会員の住所変更、所属先変更、退会、ご逝去等につきましては、学会事務センターにご連絡いただきますようお願いいたします。

なお、旧浦和市・大宮市・与野市からさいたま市への住所表記変更は、学会事務センターで行いましたので、変更届出の必要はありません。

会費、会員の異動等についてご不明な点は学会事務センターまでお問い合わせ下さい。

訃 報

下記の会員が逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

西川 知一氏 比較政治・地域研究、政党論、1923年生、理事 70・72、理事長 84、顧問

岡倉古志郎氏 国際関係・外交論、平和・軍事研究、1912年生

本号の目次

1. 2001年度の研究企画によせて
 藪野 祐三 1
2. 2001年度日本政治学会
 研究会プログラム 2
3. 第20回世界政治学会の
 日本開催について 4
4. 理事会記録 5
5. 2000年度決算(案) 8
6. 2001年度予算(案) 9
7. 会員の異動 10
8. 事務局より 14

2001年5月25日

発行 日本政治学会事務局

藤原 孝

〒101-8375 東京都千代田区三崎町2-3-1

日本大学法学部内

TEL & FAX 03-5275-8599

(財)日本学会事務センター

〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9

会員業務(退会、住所変更、会費)

TEL 03-5814-5810

FAX 03-5814-5825

印刷 (株)ニック